

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		循環線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
JR鯖江駅	神明駅	JR鯖江駅	11.5
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数(回) (a)	5,891	5,912	5,912	6,855
年間利用者数(人) (b)	43,073	32,995	35,423	49,343
平均利用者数(人) (b/a)	7.3	5.6	6.0	7.2
国庫補助額(千円)	4,348	4,752	5,118	6,874
市町補助額(委託額)(千円)	15,492	17,568	16,178	15,883

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	神明駅・公立丹南病院・市役所・西山公園・JR鯖江駅など、市内の主要起点を周回する路線であり、つつじバス利用者全体の約43%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	市街地中央部に集積する生活関連施設を循環することによって、現在の施設立地状況に対応した機能強化、各地区路線との乗継の確保による利便性の高いサービスを提供する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		鯖江南・新横江線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
嚮陽会館	JR鯖江駅東口	JR鯖江駅	13.7
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数(回) (a)	1,328	1,324	1,324	1,325
年間利用者数(人) (b)	3,820	1,784	1,872	1,887
平均利用者数(人) (b/a)	2.9	1.3	1.4	1.4
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	4,485	5,154	4,703	5,817

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の新横江地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約2%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	市内南部において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅、嚮陽会館に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		神明線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
公立丹南病院	JR北鯖江駅西口	神明駅	14.6
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数 (回) (a)	1,563	1,568	1,568	1,685
年間利用者数 (人) (b)	7,655	5,980	6,494	5,919
平均利用者数 (人) (b/a)	4.9	3.8	4.1	3.5
国庫補助額 (千円)	2,009	1,780	1,925	2,416
市町補助額 (委託額) (千円)	4,745	5,371	4,945	4,939

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の神明地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約5%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	神明地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅、JR北鯖江駅に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅・JR北鯖江駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		片上・中河線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明駅	JR北鯖江駅東口	公立丹南病院	20.9
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	片上・北中山線			片上・中河線
	R1	R2	R3	R4
年間運行回数 (回) (a)	2,049	2,300	2,300	1,685
年間利用者数 (人) (b)	8,035	6,059	6,276	3,722
平均利用者数 (人) (b/a)	3.9	2.6	2.7	2.2
国庫補助額 (千円)	3,979	3,516	3,801	3,300
市町補助額 (委託額) (千円)	10,015	11,341	10,485	5,732

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の片上・中河地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約3%を当路線が占める。
③当該路線の必要性	片上地区、中河地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR北鯖江駅や福井鉄道神明駅に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅・JR北鯖江駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		立待線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明苑	公立丹南病院 神明駅	神明苑	13.1
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数 (回) (a)	1,563	1,568	1,568	1,685
年間利用者数 (人) (b)	8,315	6,065	6,931	7,511
平均利用者数 (人) (b/a)	5.3	3.9	4.4	4.5
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	4,578	5,180	4,779	6,481

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	鯖江市の立待地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約7%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	立待地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		吉川線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明苑	公立丹南病院 神明駅	神明苑	17.3
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数(回) (a)	1,803	1,812	1,812	2,045
年間利用者数(人) (b)	11,024	8,693	6,931	8,959
平均利用者数(人) (b/a)	6.1	4.8	3.8	4.4
国庫補助額(千円)	0	0	0	2,831
市町補助額(委託額)(千円)	6,684	7,520	6,924	6,687

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	鯖江市の吉川地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約8%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	吉川地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		豊線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
JR鯖江駅	嚮陽会館 福井高専	JR鯖江駅	13.5
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数 (回) (a)	1,563	1,568	1,568	1,930
年間利用者数 (人) (b)	8,317	6,642	5,976	10,500
平均利用者数 (人) (b/a)	5.3	4.2	3.8	5.4
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	7,307	8,256	7,644	7,859

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の豊地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約9%を当路線が占める。
③当該路線の必要性	豊地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や嚮陽会館に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		北中山・中河線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
禰陽会館	JR鯖江駅	ハニー東陽店(川島北)	15.4
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	中河・北中山線			北中山・中河線
	R1	R2	R3	R4
年間運行回数(回) (a)	1,563	2,776	2,776	2,765
年間利用者数(人) (b)	5,270	3,428	3,610	3,940
平均利用者数(人) (b/a)	3.4	1.2	1.3	1.4
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	10,261	11,566	9,949	9,697

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の北中山・中河地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約3%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	北中山地区、中河地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や禰陽会館に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		河和田線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
禰陽会館	JR鯖江駅	鉾泉前	15.2
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	R1	R2	R3	R4
年間運行回数(回) (a)	2,043	3,264	3,264	5,055
年間利用者数(人) (b)	23,216	16,464	16,513	22,025
平均利用者数(人) (b/a)	11.4	5.0	5.1	4.4
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	14,606	16,893	15,717	17,871

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の河和田地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約19%を当路線が占める。
③当該路線の必要性	河和田地区、北中山地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や禰陽会館に連絡する。より身近なところにバス停を設けるなど、きめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み

<p>R4年度に実施した取組みおよびその結果・効果</p>	<p>令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行い、本市のコミュニティバスの運行ダイヤについては、令和4年度より路線およびダイヤの大幅な見直しを図り、運行を始めたところである。</p> <p>新路線・新ダイヤの実績については、見直し前の令和3年度と比較し、年間利用者数が107%の増加となった。ただ、コロナ禍前の令和元年度と比較すると依然として82.9%と減少している状況である。</p> <p>ダイヤ改正の大きな変更点（改善点）としては、市内中心部を走る循環線についてはパターンダイヤとし、各地区路線にてJR鯖江駅または神明駅まで出てきた際の循環線への乗継利便性の向上を図った。</p> <p>乗継ぎの利便性については、携帯時刻表の末尾に各地区から循環線への乗り継ぎ早見表を令和4年度版の時刻表より掲載し、市内全戸に携帯時刻表を配布してPRを行った。</p> <p>また、つつじバスは計8台のバスで運行を行っているが、車両の更新時期に入っていることから、令和4年度は中型バス1台の更新を行った。車両の更新に合わせ、バスラッピングデザインについても刷新を図り、コミュニティバスのPRを行った。</p> <p>令和4年度における利用促進策としては、令和3年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を伝える講座を実施することで利用促進に努めた。（実績：12回）</p>
<p>今後の取組みの予定、目標</p>	<p>令和6年3月の北陸新幹線敦賀延伸に伴い、並行在来線および福井鉄道福武線のダイヤ改正が見込まれることから、コミュニティバスについても各鉄道駅でのバスとの連絡を図ることを目的にダイヤ調整を行う予定である。</p> <p>また令和4年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(バスどこサービス)も紹介周知を図る。</p> <p>新たな利用者増加に向けた取組みについては、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Twitter, Instagram)を活用して、利用者の利便性を高める。</p> <p>また、これらのSNSツールを活用し、つつじバスの写真等もアップすることで、市内外にバスの存在をアピールする。さらに小型車両7台のうち5台については更新の時期を迎えていることから、更新にあわせて、バスラッピングについても、一部リニューアルを行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。</p> <p>その他にもバス停表示看板デザインのリニューアルによるPRを実施する。</p>